



男声合唱組曲「人間の歌」より

浜の足跡

作詩：堀口 大學 作曲：多田 武彦

貝殻は 海の落とし子
歌声が 海に似ている
ドラゴンは 竜の落とし子
竜巻の中で生まれる
ひとでなら 星の落とし子
しらじらと 宵の渚に
足跡は 誰が落とした
恋人が 夕べ落とした
やがて来て 波が消し去る

作曲に際し、『敗戦後、幾多の抑制から解放され、色々な思想や感情を自由に吐露できるようになった。やっと人間を取り戻すことが出来た！という詩人の感慨をあらためてかみしめて…、そうした幸福感、開放感を持たせながら作曲した』という。

恋人との愛しい日々は、戦時の「波」に消し去られたままであろうか？また、世に数多ある他の「足跡」の行方は…？淡白な曲調は、取り戻せぬ過ぎ去った日々への、やるせない諦めにも似て。

浜の足跡

堀口 大學 作詩
多田 武彦 作曲

$\text{♩} = 92$

f

T-1.2
8

かいがらは うみのおとしご うたごえが うみににている

B-1.2

5 **mf** *rit.* (2回目)

8

ドラゴンは たつのおとしご たつまきの なかでうまれる

9 **mp** 1.

8

ひとでなら ほしのおとしご しらじらと よいのなぎさに

13 **p** **pp**

8

あしあとは だれがおとした こいびとが ゆうべおとした

17 **mf** *meno mosso* $\text{♩} = 75$ **mp** *rit.*.....

8

やがてきて やがてきて なみがけしさる

f **mp**

mf

やがてきて